

『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著、2019(北樹出版) 2020年度～

科目概要

- (1)知的障害児者の認知・行動面に影響する心理的特性に関し学ぶ。
- (2)個別の指導計画を立案する上での重要な資料となる、主要な知能検査・発達検査の解釈の基礎について、実践的な演習を交えて学ぶ。
- (3)知的障害児者のキャリア支援、生涯学習支援に関し学ぶ
- (4)上記の知識を基にして、校内委員会のシミュレーション演習を行い、個別の指導計画を作成し、その意義について学ぶ(通信では演習なし)

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 知的障害の定義、分類に関し理解し、同障害のある児童・生徒の教育的支援の基礎を学ぶこと
2. 主な知能・発達検査によるアセスメントに関し学び、個別の指導計画との関係を理解すること
3. 学齢期後に向けたキャリア支援、生涯学習支援の内容、支援方法に関し、理解すること
4. 以上を通じて知的障害児者の基本的な心理特性に関し習得すること

■ 科目の学習要点事項

1. 知的障害の定義、分類、支援ニーズに関する理解
2. 病理型の代表としてのダウン症と生理型の軽度知的障害の特性と指導に関する理解
3. WISC4等、アセスメントに関する学習 (1)検査の基本的理解、(2)個別の指導計画への利用
4. 知的障害者の就労支援に関する理解(課題分析・職務分析・ナチュラルサポート等)
5. 知的障害児者の生涯学習の現状と必要性に関する理解

参考文献

『特別支援教育の理論と実践1・概論・アセスメント』上野一彦・牟田悦子他(金剛出版)

『実践に生きる特別支援教育』島田博祐・星山麻木編(明星大学出版部)

評価基準

■ レポート評価

- ①課題内容について説明できているか。
- ②テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■ 科目終了試験評価

- ①テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ②論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

使用テキスト

配本年度

『発達障害児の病理と心理 改訂版』(培風館)

2011 年度～

科目概要

知的障害、特異的発達障害を認知機能や脳機能と絡めながら発達障害児の生理および病理学的な基礎を解説し、発達性および獲得性の知的障害とその障害機序を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達障害を引き起こす原因を理解する。
2. 脳の機能とその障害を理解する。
3. 代表的な障害の病理を理解する。
4. 障害を認知神経心理学(認知機能)から捉えることを学ぶ。
5. 発達障害の鑑別診断法を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 発達障害の定義・分類・原因・診断を理解する。
2. 染色体異常を理解する。
3. 脳の構造と機能を理解する。
4. 代表的な障害(知的障害・自閉症・ディスレクシア・ADHD・脳性麻痺)の定義を理解する。
5. 発達障害の鑑別を認知神経心理学的な検査法を通して理解する。

参考文献

『ことばとこころの発達と障害』(永井書店)

『よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション』(永井書店)

『発達障害のアセスメントとケーススタディ』(学文社)

評価基準

■ レポート評価

- ① 科目の到達目標をきちんとレポートにまとめられているか。
- ② 具体的な事例やデータを基に説明されているか。
- ③ 使用されている用語が正しく理解されているか。

以上の観点から評価します。

■ 科目終了試験評価

- ① 問題の意味を理解し専門用語の定義が正しく説明できることが重要である。
- ② 特に学習の到達目標の各節から均等に出题するために、それぞれの学習要点事項を整理し理解することが必要である。
- ③ 試験の準備として、レポート課題と科目の学習要点事項の内容について理解を深めておくこと。

『肢体不自由教育の理念と実践』(ジアース教育新社)

2011 年度～

科目概要

肢体不自由者の心理・生理・病理・指導について、対象児の理解、指導の実際、保護者への支援などを総合的に学び、肢体不自由者の教育における基礎的、実践的な力を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

肢体不自由児者の心理・生理・病理・指導について、理解を深め、その障害特性の理解と指導法について学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 肢体不自由児者の代表的な障害特性と発達理解
2. 教育課程、個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成
3. 保護者や地域との連携

参考文献

『障害特性の理解と発達援助』昇地勝人(ナカニシヤ出版)

『あなたへのおくりもの』星山麻木(河出書房新社)

『肢体不自由教育の基本とその展開』日本肢体不自由教育研究会(慶応義塾大学出版会)

評価基準

■ レポート評価

指導方法や指導案に個別の教育支援計画、個別の指導計画や目標が生かされていること。チームサポートの重要性、連携の在り方、などが、理解されているとなお良い。

■ 科目終了試験評価

総合的に、肢体不自由者の理解と実際の支援の方法について理解していること。

『病弱・虚弱児の医療・療育・教育 改訂3版』 宮本 信也(金芳堂)

2016 年度～

科目概要

病弱、身体虚弱の児童生徒の状態や生活環境に応じた適切な教育を行うことは、学習の空白や遅れを補完するだけではなく、生活の質の向上や心理的な安定に不可欠である。この科目では病弱教育の対象となる疾患を理解し、彼らをトータルケアしていくための考え方について理解を深める。また、支援の方法として、心理的ケアを中心に指導案を作成する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

病弱者に対する心理的支援、自己管理を支援していくための健康、トータルケアについて理解し、その概要を説明することが出来る。

■ 科目の学習要点事項

支援の方法について記述することができる。

参考文献

『障害児者の教育と生涯発達支援(第3版)』(北樹出版)

『あなたへのおくりもの』星山麻木(河出書房新社)

評価基準

■ レポート評価

事例を通じて、指導方法や指導案に個別の教育支援計画や個別の指導計画が活かされていること。将来を見通したなかでの、チームサポートの重要性、連携の在り方、などが、理解されているとなお良い。

■ 科目終了試験評価

総合的に、病弱者の理解と実際の支援の方法について理解していることが重要である。

『みんなで考える特別支援教育』 梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著、2019(北樹出版) 2020年度～

科目概要

- (1)知的障害児者の認知・行動面に影響する心理的特性に関し学ぶ。
- (2)個別の指導計画を立案する上での重要な資料となる、主要な知能検査・発達検査の解釈の基礎について、実践的な演習を交えて学ぶ。
- (3)知的障害児者のキャリア支援、生涯学習支援に関し学ぶ
- (4)上記の知識を基にして、校内委員会のシミュレーション演習を行い、個別の指導計画を作成し、その意義について学ぶ(通信では演習なし)
- (5)特別支援学校における知的障害児の教育課程に関し学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 知的障害の定義、分類に関し理解し、同障害のある児童・生徒の教育的支援の基礎を学ぶこと
2. 主な知能・発達検査によるアセスメントに関し学び、個別の指導計画との関係を理解すること
3. 学齢期後に向けたキャリア支援、生涯学習支援の内容、支援方法に関し、理解すること
4. 特別支援学校における知的障害児の教育課程(各教科を合わせた指導等)に関し理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 知的障害の定義、分類、支援ニーズに関する理解
2. 病理型の代表としてのダウン症と生理型の軽度知的障害の特性と指導に関する理解
3. WISC4 等、アセスメントに関する学習 (1)検査の基本的理解、(2)個別の指導計画への利用
4. 知的障害者の就労支援に関する理解(課題分析・職務分析・ナチュラルサポート等)
5. 知的障害児者の生涯学習の現状と必要性に関する理解
6. 知的障害を対象とした特別支援学校、特別支援学級の教育課程に関する理解

参考文献

『特別支援教育の理論と実践1・概論・アセスメント』上野一彦・牟田悦子他(金剛出版)
『実践に生きる特別支援教育』島田博祐・星山麻木編(明星大学出版部)

評価基準

■ レポート評価

レポートテーマに関しテキストを熟読して理解し、習得した知識を概略的にまとめ、自己本位の知見に陥ることなく記述することができているか。

■ 科目終了試験評価

レポートをまとめたことで習得した知識を、試験課題を通じ、適切に反映することができているか。

使用テキスト

配本年度

『肢体不自由児の教育』西川公司、川間健之介 編著(財団法人放送大学教育振興会 2010) 2014 年度

『改訂版 肢体不自由児の教育』西川公司、川間健之介 編著(財団法人放送大学教育振興会 2014)

2015 年度～2020 年度

『新訂 肢体不自由児の教育』川間健之介、長沼 俊夫 編著(財団法人放送大学教育振興会)

2021 年度～

科目概要

肢体不自由児の生理・病理・心理の特性から、肢体不自由児のための特別支援学校の教育課程、指導法まで幅広く学び、肢体不自由児教育についての基本的な理解を図る。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

肢体不自由児教育の現状と課題について基本的・基礎的な理解をする。

■ 科目の学習要点事項

1. 肢体不自由児の生理・病理・心理の特性
2. 主に脳性まひについて、その障害特性と発達
3. 肢体不自由児のための特別支援学校の教育課程の特徴
4. 身体の動きやコミュニケーションの指導
5. 重度重複児童生徒の自立活動の指導と配慮事項
6. 肢体不自由児への教科指導について
7. 個別の教育支援計画や個別の指導計画と保護者や関係機関との連携

参考文献

- ① 『障害の重い子どもの指導 Q&A』全国特別支援学校肢体不自由教育校長会編(ジエース教育新社 2011 年)
- ② 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』(開隆堂 2018 年)
- ③ 『肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版』(金芳堂 2015 年)

評価基準

■ レポート評価

- ・テキスト等を熟読している記述かどうか。
- ・わかりやすい記述であるかどうか。
- ・自分の言葉で記述しているかどうか。
- ・内容的には、「レポート課題の解説」に示した観点に沿っているかどうか。

■ 科目終了試験

レポート課題作成のために学習した事柄をしっかりと理解し覚えていれば解ける問題である。

テキストおよび参考文献から学ぶと同時に、肢体不自由児と触れ合う経験が理解を深めるもっとも適切な方法である。

『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた病気の子どものための教育必携』

全国特別支援学校病弱教育校長会編(ジアース教育新社)

2021年度～

科目概要

病弱の子どもの教育は、あまり知られていないことが多く、病気の子どもや保護者だけで悩んでいることがあります。教育の場である特別支援学校(病弱)、病弱特別支援学級、通級による指導等病弱児に係わる教育の場と教育形態等について理解しておく必要があります。そこでこの科目では、病弱児への支援として「我が国の学校教育システムとしての多様な学びの場」「ICT 機器等の活用」「特別支援学校学習指導要領改訂の概要」「病気の状態に応じた指導の工夫」「主な病気の概要」等について理解を深め、指導の充実を図ることを目標とします。

予習に必要な時間は3時間、復習に必要な時間は2時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

病弱教育対象児の現状、主な病気、教育の場と教育形態、教育内容・方法等を通して病弱の子どもへの適切な指導、必要な支援について理解を深める。

- ・病弱児を理解する。
- ・病弱教育対象児の現状と主な病気について理解する。
- ・病弱教育の意義と多様な教育の場、教育形態について理解する。
- ・病弱教育に係わる教育内容・方法等基礎的・基本的事項について理解する。
- ・病気等の状態に応じた適切な指導と必要な支援について理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

- ・病弱児の理解
- ・病弱教育対象児の変遷と現状、主な病気の概要
- ・病弱教育の意義
- ・病弱児に対する多様な学びの場
- ・病弱教育に係わる教育課程の編成
- ・病弱児の病気の状態に応じた工夫と配慮事項

参考文献

- ①病弱教育における各教科等の指導(ジアース教育新社)
- ②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部、小学部、中学部)／文部科学省(教育出版)
- ③特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)／文部科学省(海文堂出版)
- ④特別支援学校学習指導要領解説 自立活動／文部科学省(教育出版)

評価基準

■レポート評価

- それぞれのレポート課題のキーワードとなる言葉の意味を理解し病弱の子どもと関連させて回答されているかが合否の基準となる。
- 課題に即して、分かりやすく、論理的に述べているか。
- 自分なりの考え方で述べているか。

■科目終了試験評価

- テキスト及びレポート課題を十分理解し、自分なりの視点で、考察しているか。
 - 文章を書く上での基本的なルールに基づいた文章構成となっているか。
- 病弱児教育の意義について理解し、教育上の配慮事項等に基づいた適切な指導と必要な支援について理解することが大切である。

使用テキスト

配本年度

『特別支援教育の実績情報 PLUS 平成 29 年版 学習指導要領改訂ポイント 特別支援学校』(明治図書)

2018 年度～2020 年度

① 『特別支援校教要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省編(開隆堂)

2019 年度～

② 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』文部科学省編(開隆堂)

2019 年度～

③ 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省編(開隆堂)

2019 年度～

④ 『特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編(上)(高等部)』文部科学省 著(ジアース教育新社)

2021 年度～

⑤ 『特別支援学校学習指導要領解説知的障害者教科等編(下)(高等部)』文部科学省 著(ジアース教育新社)

2021 年度～

①～⑤はセットで配本

科目概要

教育課程に関する基準と関連する法令を学んだ上で、特別支援学校における教育課程の編成と実施の仕方について理解する。特に重複障害等に関する教育課程の取扱いや知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科について留意すること。また、自立活動の指導と個別の指導計画等の作成についても理解と認識を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 特別支援学校(肢体不自由、病弱、知的障害)における教育課程の編成と実施の仕方について理解する。
2. 重複障害等に関する教育課程の取扱いや知的障害者である児童生徒に対する教育の特徴を知る。
3. 自立活動の指導と個別の指導計画等の作成について理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 教育課程に関する法制、教育課程の意義
2. 教育目標、教育課程編成上の一般方針、内容等の取扱いに関する共通的事項
3. 総合的な学習の時間の取扱い、重複障害者に関する特例
4. 授業時数等の取扱い、指導計画作成等に当たっての配慮事項
5. 肢体不自由者に対する特別支援学校における指導
6. 病弱者に対する特別支援学校における指導
7. 知的障害者に対する特別支援学校における教育課程の特徴
8. 知的障害者に対する特別支援学校小学部・中学部における各教科等の指導
9. 知的障害者に対する特別支援学校高等部における各教科等の指導、キャリア教育
10. 知的障害者に対する特別支援学校における各教科等を合わせた指導
11. 自立活動の目標と指導内容、指導計画作成の手順等

12. 「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成と活用
13. 交流及び共同学習の推進について
14. 特別支援学校の特別支援教育に関するセンターとしての役割
15. 学習指導要領改訂のポイント・教育課程実施上の配慮事項

参考文献

『肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズ No.1 学習指導の充実を目指して』 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会(ジアース教育新社)

『学習指導要領 Q&A 特別支援教育[知的障害教育]』 明官 茂 (監修), 全国特別支援学校知的障害教育校長会 著(東洋館出版社)

『特別支援教育の基礎・基本 2020』 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著(ジアース教育新社)

評価基準

■レポート評価

- ①課題内容について説明できているか。
- ②テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■科目終了試験評価

- ①テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ②論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

使用テキスト

配本年度

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』

文部科学省編著（開隆堂出版） 2015年度～2018年度

『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）』

文部科学省編著（開隆堂出版） 2019年度～2020年度

『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』杉野学・上田征三編著（大学図書出版）

2021年度～

科目概要

本科目では、まず知的障害のある児童生徒の指導支援の在り方を学ぶ上で必須となる知的障害の捉え方や、障害特性などの概要を説明し、知的障害教育に関する教育制度、主な教育法令等について説明する。

また、特別支援学校(知的障害)学習指導要領解説総則等編を中心に、知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級(自閉症・情緒障害特別支援学級も含む)における教育課程の編成の特徴や、知的障害児者に対する基本的な対応、具体的な指導支援の在り方について述べていく。

さらに、障害者の権利に関する条約の批准に伴い、知的障害児者への合理的配慮等についても触れていく。

※文部科学省ホームページなどから平成29年4月告示の特別支援学校学習指導要領(幼稚部・小学部・中学部)等の改定ポイントを参照すること。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

- ・知的障害の捉え方、概要について理解を深める。
- ・知的障害教育に関する教育制度や主な教育法令等について学ぶ。
- ・知的障害特別支援学校における教育課程の編成の特徴を学び、教科別の指導や領域別の指導、各教科等を合わせた指導について理解を深める。
- ・知的障害特別支援学級並びに自閉症・情緒障害特別支援学級における教育課程の編成について学び、具体的な指導や支援の在り方を学ぶ。
- ・知的障害のある児童生徒を対象にした個別の教育支援計画及び個別の指導計画について理解を深める。
- ・障害者の権利に関する条約について学び、知的障害児者への合理的配慮について認識を深める。

■ 科目の学習要点事項

- ・知的障害の捉え方
- ・知的障害教育に係る教育制度と主な教育法令等
- ・知的障害特別支援学校の教育課程編成の特徴
- ・教科別の指導、領域別の指導、各教科等を合わせた指導
- ・知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級の教育課程の編成及び指導
- ・個別の教育支援計画と個別の指導計画
- ・障害者の権利に関する条約における合理的配慮

参考文献

- ① 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省(開隆堂出版)
- ② 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』文部科学省(開隆堂出版)
- ③ 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』文部科学省(開隆堂出版)

評価基準

■レポート評価

- ・レポート作成においては、テキストを熟読すると共に講義で使用したプリント資料等を参考に、レポート課題の趣旨を理解して、重要な事項を自分なりの視点から論述すること。その際、通信教育補助教材の「履修の手引」から記述方法を確認すること。

使用テキスト

配本年度

『障害児保育ワークブック』星山麻木(萌文書林)

2014 年度～2016 年度

『障害児保育ワークブック<第 2 版>』星山麻木(萌文書林)

2018 年度～

科目概要

知的障害児者の主たる指導方法について理解します。まず、ダウン症候群など知的障害における障害特性の理解をします。続いて、発達評価を元にした指導法について基本的な知識を身につけ、指導案を作成します。実践的な指導力を養い、保護者支援を含めた連携の課題の理解など支援の実際を総合的に学びます。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

主な知的障害の特性の理解を理解し、発達(発達段階、発達検査、環境と発達、標準の発達)と主な指導方法の理解について学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. ダウン症など知的障害の定義と分類
2. アセスメントの理解と主たる指導法についての理解
3. 保護者支援を含めた乳幼児から学童期の支援について

参考文献

- ① 『あなたへのおくりもの』星山麻木(河出書房新社)
- ② 『障害特性の理解と発達援助』昇地勝人(ナカニシヤ出版)
- ③ 『この子は育てにくい、と思っても大丈夫』星山麻木(河出書房新社)
- ④ 『星と虹色な子どもたち』星山麻木(学苑社)

評価基準

■ レポート評価

指導方法や指導案に障害特性の理解、個別の指導計画や目標が生かされていること。チームサポートの重要性、連携の在り方、保護者支援の在り方、などが、理解されているとなお良い。

使用テキスト

配本年度

『肢体不自由児の教育』西川公司、川間健之介編著(財団法人放送大学教育振興会)

2012年度～2014年度

『改訂版 肢体不自由児の教育』西川公司、川間健之介編著(財団法人放送大学教育振興会)

2015年度～2018年度

『よくわかる肢体不自由教育』安藤隆男・藤田継道(ミネルヴァ書房)

2019年度～

科目概要

肢体不自由児(者)の指導に当たって、生理、病理、心理特性について理解を深め、個々の教育的ニーズを踏まえた指導内容、指導方法の実際について学び、実践力を養う。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

肢体不自由児(者)の生理、病理、心理特性について基礎となる知識を得て理解を深め、学習活動を行う際に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法を考えることができるようになる。

■ 科目の学習要点事項

1. 代表的な肢体不自由疾患について、その病理と特徴を理解する。
2. 障害の状態や発達の段階に即した指導内容・方法について学ぶ。
3. 教育課程の特徴、指導計画の作成の仕方、教材・教具の役割について学ぶ。
4. 職業教育と進路指導…肢体不自由特別支援学校高等部の職業教育や進路指導の要点を理解する。
5. 情報機器等の活用…肢体不自由者の指導における、補助用具や補助的手段、情報機器の活用の実際を理解する。

参考文献

- ・『肢体不自由の教育』西川公司、川間健之助編著(放送大学教育振興会 2012)
- ・『特別支援教育の指導法第2版』安藤隆男編(筑波大学特別支援教育センター2016)
- ・『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)』(平成30年3月告示)
- ・『特別支援学校学習指導要領解説総則等編(高等部)』(平成30年3月告示)
- ・『特別支援学校学習指導要領解説自立活動編』(平成30年3月告示)

評価基準

■ レポート評価

- ・テキスト等を熟読している記述かどうか。
- ・わかりやすい記述であるかどうか。
- ・自分の言葉で記述しているかどうか。
- ・自分なりの考えをまとめて述べているかどうか。

使用テキスト

配本年度

『特別支援学校の学習指導要領を踏まえた「病気の子どものガイドブック」-病弱教育における指導の進め方-』
全国特別支援学校病弱教育校長会編(ジアース教育新社) 2013年度～2017年度
『病気の子どもの教育支援ガイド』編著 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)
2018年度～

科目概要

病弱の子どもは、特別支援学校(病弱)や病弱の特別支援学級で学習したり、地域の小・中学校等に通学したりするなど様々な場で教育を受けており、病弱の子どもへの教育的支援の基本を知っておく必要がある。そこで、この授業科目では、「病弱の子どもの理解とその教育的支援について理解する。」、「病気の状態に応じた指導上の配慮や心構えを身に付ける。」ことを目標とする。

予習に必要な時間は3時間。復習に必要な時間は2時間です。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

病弱の子どもの実態や病弱教育の現状と特徴について理解するとともに、病気や障害のある子どもを支援する心構えを身に付ける。

1. 子どもの病気を理解し、特性に応じた教育的配慮を理解する。
2. 病弱教育の特色を理解する。
3. 一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導と支援について理解する。
4. 病弱の子どもへの基本的な教育支援を習得する。

■ 科目の学習要点事項

1. 病弱児の理解
2. 病弱教育の意義
3. 病弱教育の現状と特徴
4. 病弱児の指導上の配慮事項
5. 病弱教育に係わる教育課程の編成
6. 一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導の工夫
7. 病弱児の個別の教育支援計画
8. 病弱教育に係わるセンター的機能

参考文献

- ①病弱教育における各教科等の指導(ジエース教育新社)
- ②特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(幼稚部、小学部、中学部)／文部科学省(教育出版)
- ③特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)／文部科学省(海文堂出版)
- ④特別支援学校学習指導要領解説 自立活動/文部科学省(教育出版)

評価基準

■レポート評価

- ・それぞれのレポート課題のキーワードとなる言葉の意味を理解して、病弱の子どもと関連させて回答されているかが合否の基準となる。
- ・課題に即して、分かりやすく、論理的に述べているか。
- ・自分なりの考え方で述べているか。

使用テキスト

配本年度

『視覚障害心理学』佐藤泰正編(学芸図書)

2012年度～2016年度

『視覚障害児・者の理解と支援』芝田裕一著(北大路書房)

2017年度～

科目概要

視機能の生理、視覚障害の種類、視覚障害の原因疾患である眼疾患の病態、視機能への影響について学ぶことを目的とする。また、視覚障害者の心理・感覚補償・情報保障についても学ぶ。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

視覚障害について、原因である眼疾患も含めて理解できるとともに視覚障害者の心理についても、理解を深める。

■ 科目の学習要点事項

- ① 視覚器解剖・生理学について基本的なことを理解する。
- ② 視力障害・視野障害の定義や種類について理解する。
- ③ 視力障害の原因となる眼疾患について理解する。
- ④ 視覚障害者の心理について理解する。
- ⑤ 視覚障害学生の生活の質(QOL)について考える。
- ⑥ 視覚障害者の感覚補償、情報保障について理解する。

参考文献

- ① 『視覚障害教育に携わる方のために 五訂版』香川邦生編著(慶応義塾大学出版会)
- ② 『視力の弱い子どもの理解と支援』大川原潔ほか編(教育出版)
- ③ 『特別支援学校一 幼稚部教育要領/小学部・中学部学習指導要領/高等部学習指導要領』文部科学省編(海文堂出版)
- ④ 『改訂 視覚障害リハビリテーション概論』坂本洋一著(中央法規)
- ⑤ 『視覚障害指導法の理解と実際』鳥山由子編著(ジアーズ教育新社)
- ⑥ 『新訂版 視覚障害教育入門 Q&A』全国盲学校長会編著(ジアーズ教育新社)
- ⑦ 『眼科検査 Note 眼科検査手帳』加藤浩晃・木下 茂(MC メディカ出版)

評価基準

■ レポート評価

- ① 問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ② 十分調べているか。参考にした文献があれば文献リストを載せる。
- ③ 論理的展開になっているか。
- ④ 正しい日本語で書かれているか。

■ 科目終了試験評価

- ① 問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ② 論理的展開になっているか。
- ③ 正しい日本語で書かれているか。

使用テキスト

配本年度

『特別支援教育の基礎・基本』新訂版

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

2015年度～2020年度

『特別支援教育の基礎・基本』2020

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

2021年度～

科目概要

聴覚・聴覚障害に関する基本的な心理・生理・病理を理解し、聴覚障害から派生する言語発達上の課題に対応する方法を理解する。また、補聴器や人工内耳などの医療等技術の進歩を理解し、教育場面における活用に際しての配慮事項を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 聴覚に関連する聴覚器官の基本的な生理機能の知識が身に付く。
2. 学校教育と関係の深い聴覚障害に関する諸検査・アセスメントの知識が身に付く。
3. 聴覚障害があることによる言語発達や日本語習得の課題を理解する。
4. 補聴器や人工内耳の基本的な機能の知識が身に付く。

■ 科目の学習要点事項

1. 聴覚障害とは
2. 聴覚検査法
3. 聞こえとコミュニケーションの発達
4. 補聴器と人工内耳の基礎知識

参考文献

- ① 『聴覚障害教育の手引―聴覚を活用する指導』文部省(海文堂出版)
- ② 『難聴児童生徒へのきこえの支援―補聴器・人工内耳を使っている児童生徒のために―』財団法人日本学校保健会(電子図書館でWeb公開されている)
- ③ 『聴覚障害の心理』中野善達・吉野公喜(田研出版)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を的確に把握し、レポート課題の関係箇所の記述を自己の言葉で整理して説明ができており、なおかつレポート用紙の約8割程度以上を使用して、基本事項のまとめができていれば、合格とする。

■ 科目終了試験評価

聴覚障害児への教育は、聞こえの状態の把握、聴覚障害に起因する言語発達への影響への対応が重要となる。医療と福祉と教育が連携しながら、聴覚に障害がある子どもの教育が行われているわけである。ここでは、このことに関係する心理・生理・病理に関する事項が理解できていれば合格(60点以上)とする。

使用テキスト

配本年度

『特別支援児の心理学－理解と支援－』

梅谷忠勇・生川善雄・堅田明義編著(北大路書房)

2012年度～2014年度

『特別支援児の心理学〔新版〕－理解と支援－』

梅谷忠勇・生川善雄・堅田明義編著(北大路書房)

2015年度～

科目概要

本科目では、特別な教育的支援を必要とする障害児の障害の概念・種類、各種障害の相互関連、障害の原因・病理や診断・状態把握について学ぶ。

その上で、重複障害(重度・重複障害を含む)、LD・ADHD・自閉性スペクトラム症(自閉性障害、高機能自閉症)等、発達障害のそれぞれの概要(定義、原因、分類)と診断・状態把握、心理特性、生理・病理について学ぶ。

さらに、それらの各種障害児に対する発達支援の在り方についての認識を深める。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 特別な教育的支援が必要な障害児の障害の種類とその相互関連について理解する。
2. 障害児の障害の原因・病理について認識を深める。
3. 障害の診断・理解と状態把握の視点について学ぶ。
4. 重複障害(重度・重複障害を含む)の概要(定義、原因・病理、分類)、診断と心理特性について認識を深める。
5. LDの概要(定義、原因・病理、分類)、診断と心理特性について認識を深める。
6. ADHDの概要(定義、原因・病理、分類)、診断と心理特性について認識を深める。
7. 自閉性スペクトラム症等の概要(定義、原因・病理、分類)、診断と心理特性について認識を深める。
8. 重複障害、LD等発達障害児に対する発達支援の在り方について学ぶ。

■ 科目の学習要点事項

1. 障害児の障害の種類とその相互関連
2. 障害の原因・病理
3. 障害の診断・理解と状態把握
4. 重複障害の概要、診断、心理特性
5. LDの概要、診断、心理特性
6. ADHDの概要、診断、心理特性
7. 自閉性スペクトラム症(自閉性障害、高機能自閉症)等の概要、診断、心理特性
8. 各種障害児への発達支援の在り方

参考文献

- ①『障害特性の理解と発達援助』昇地勝人他編(ナカニシヤ出版)
- ②『発達障害かもしれない』磯部潮著(光文社)

評価基準

■レポート評価

レポート作成にあたっては、レポート課題の趣旨を理解し、テキスト(参考文献を含む)を熟読したうえで、テキストの記述を転記するのではなく、重要事項を押さえて自分なりの視点から考察し、論理的に記述するようにすること。

■科目終了試験評価

科目終了試験は、上記の「科目概要」および「学習上の目標」に関係したテキストの内容の全体にわたって出題している。評価は出題の趣旨に沿った重要事項(キーワード)を盛り込んで、論理的かつ具体的に説明されているかにより行う。

使用テキスト

配本年度

『視覚障害教育入門—改訂版—』青柳まゆみ・鳥山由子編著(ジアース教育新社) 2016年度～2020年度
『新・視覚障害教育入門』青柳まゆみ・鳥山由子編著(ジアース教育新社) 2021年度～

科目概要

1. 視覚障害児と学びの場
2. 視覚の成り立ち
3. 視覚障害乳幼児の発達と支援
4. 盲児の指導
5. 弱視児の指導
6. 点字
7. 教科の指導と教材教具、教科書
8. 自立活動の指導
9. 歩行指導
10. キャリア教育・進路指導

学習上の目標

■ 科目の到達目標

幼児・初等・中等教育および高等教育までの教育全体の流れの中で視覚障害学生の教材・教具を含めた学習環境の理解、問題点把握とその改善に向けての意識、意欲、実践力を養うことを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

- ① 視覚障害教育の歴史、現状について学習する。
- ② 教育課程、指導法について学習する。
- ③ 視覚障害教育のために教材、教具について学習する。
- ④ 卒業後の進路について学習する。
- ⑤ 視覚障害と福祉について学習する。

参考文献

- ①『視覚障害教育に携わる方のために』香川邦夫編(慶應義塾大学出版会)
- ②『特別支援教育の基礎・基本 2020』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著(ジアース教育新社)
- ③『視覚障害指導法の理解と実際』鳥山由子編著(ジアース教育新社)

■レポート評価

- ①問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ②十分調べているか。参考にした文献があれば文献リストを載せる。
- ③論理的展開になっているか。
- ④言葉の意味を理解して使い、書かれているか。

■科目終了試験評価

- ①問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ②論理的展開になっているか。
- ③言葉の意味を理解して使い、内容が書かれているか。

『特別支援教育の基礎』杉野学・長沼俊夫・徳永亜紀雄編著(大学図書出版)

2019 年度～

科目概要

我が国の聴覚障害教育の制度・指導内容の実際について学び、聴覚障害者である児童生徒への指導場面に対応できる基礎的な指導法や指導上の配慮を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 聴覚障害者である児童生徒への指導法の知識が身に付く。
2. 聴覚障害者である児童生徒への教科指導における配慮事項の理解が深まる。
3. 聴覚障害者である児童生徒への自立活動の知識が身に付く。

■ 科目の学習要点事項

1. 聴覚障害の原因、出現率、聴力レベルの違いについて
2. 聴覚障害教育の対象
3. 早期からの教育的対応と保護者への支援
4. 聴覚障害のある児童生徒への指導内容
5. 聴覚障害の児童生徒への情報保障
6. 聴覚障害の特性を踏まえた教科指導
7. 聴覚障害教育における自立活動

参考文献

- ①『特別支援学校学習指導要領と解説 自立活動編』文部科学省
- ②『改訂版 聴覚障害教育の基本と実際』中野善達・根本匡文(田研出版)
- ③『特別支援教育の基礎・基本』2020 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を的確に把握し、関係箇所の記述を自己の言葉で整理して説明ができており、なおかつレポート用紙の約8割程度以上を使用して、基本事項のまとめができていれば、合格とする。

■ 科目終了試験評価

テキストや参考文献の内容を踏まえた上で、聴覚障害児への基本的な指導方法についてバランスよく理解ができていれば合格(60点以上)とする。ただし、試験解答においては、自己流の解釈や特定の主張しか記載していない場合は、不合格とする。

使用テキスト

配本年度

①『みんなで考える特別支援教育』梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著(2019)、北樹出版

②『重度重複障害のある子どもの理解と支援』大沼直樹編著(2009)、明治図書

① ②はセット 2020年度～

科目概要

- (1) LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害の定義、特性を理解し、学習支援、行動支援の基本に関し学ぶ
- (2) 発達障害児に対する社会的スキル訓練(SST)の意義に関し理解し、基本的な技法に関して学ぶ
- (3) 重複障害における実態把握と健康維持、興味喚起、コミュニケーション支援に関し学ぶ

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)の定義、障害特性に関し、理解すること
2. 発達障害に係る学習支援、行動支援の基本的な技法に関し、理解すること
3. 重複障害における自立活動の一環としての健康維持、身体機能の向上、コミュニケーション支援の方法について学習すること

■ 科目の学習要点事項

1. 発達障害の定義
2. LD、ADHD の特性と対応～機能(ABC)分析
3. 自閉症スペクトラム障害の特性と対応～TEACCH プログラムによる構造化等の踏まえて
4. 社会的スキル訓練の目的と手法
5. 重度重複障害の実態把握と自立支援
6. 重度重複障害のコミュニケーション支援

参考文献

通常学級での特別支援教育のスタンダード(東京書籍)

発達障害がいるクラスの授業・学級経営の工夫(明治図書)

重度重複障害児の興味への開発法(明治図書)

評価基準

■ レポート評価

- ① 課題内容について説明できているか。
- ② テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■ 科目終了試験評価

- ① テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ② 論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

使用テキスト

配本年度

『視覚障害教育に携わる方のために4訂版』香川邦生編著(慶応義塾大学出版会)2014年度～2016年度

①『視力の弱い子どもの理解と支援』大川原潔ほか編著(教育出版) 2017年度～

②『視覚障害教育に携わる方のために5訂版』香川邦生編著(慶応義塾大学出版会) 2018年度～

①②はセット配本

科目概要

視覚障害教育のあゆみ、視覚障害学生への教育、支援および卒業後の就労について学習する。

その他必要である、または期待される主体的学びの概要:

視機能の生理、視覚障害の種類、視覚障害の原因疾患である眼疾患の病態、視機能への影響および視覚障害学者の心理についても学習する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

視覚障害について、原因である眼疾患も含めて理解できるとともに視覚障害者の心理についても、理解が深まる。初等・中等教育および高等教育までの教育全体の流れの中で視覚障害学生の教材・教具を含めた学習環境の理解、問題点把握とその改善に向けての意識、意欲、実践力を養うことを目標とする。

■ 科目の学習要点事項

- ① 視覚器解剖・生理学について基本的な事を理解する。
- ② 視力障害・視野障害の定義や種類について理解する。
- ③ 視力障害の原因となる眼疾患について理解する。
- ④ 視覚障害者の心理について理解する。
- ⑤ 視覚障害学生の生活の質(QOL)について考える。
- ⑥ 視覚障害教育の歴史、現状について学習する。
- ⑦ 教育課程、指導法について学習する。
- ⑧ 視覚障害教育のために教材、教具について学習する。
- ⑨ 卒業後の進路について学習する。
- ⑩ 視覚障害と福祉について学習する。

参考文献

- ①『視覚障害児・者の理解と支援(新版)』芝田裕一著(北大路書房)
- ②『小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援—通学の学級を担当される先生方のために』
香川邦生編集(教育出版)
- ③『視覚障害と発達』デヴィッド・H・ウォーレン著、山本利和監訳(二瓶社)
- ④『視覚障害教育入門』青柳まゆみ、鳥山由子(ジアース教育新社)
- ⑤『新訂版 新学習指導要領(平成29年告示)対応 視覚障害教育入門 Q&A』全国盲学校長会(編著),
青木隆一,神尾裕治(監修)(ジアース教育新社)

評価基準

■レポート評価

- ①問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ②十分調べているか。参考にした文献があれば文献リストを載せる。
- ③論理的展開になっているか。
- ④正しい日本語で書かれているか。

■科目終了試験評価

- ①問われた課題の項目に対してすべて回答しているか。
- ②論理的展開になっているか。
- ③正しい日本語で書かれているか。

使用テキスト

配本年度

『特別支援教育の基礎・基本』新訂版

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

2015年度～2020年度

『特別支援教育の基礎・基本』2020

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所(ジアース教育新社)

2021年度～

科目概要

我が国の聴覚障害教育の歴史、教育制度、教育課程、各教科等の配慮事項を知るとともに、聴覚障害教育における言語指導法、手話活用について理解する。教室の中で学習する聴覚障害児童生徒にどのように情報保障したらよいか、聴覚障害児童生徒への具体的な指導場面に対応できる基礎的な指導方法・内容を理解する。

また、聴覚障害の基本的な心理生理病理を理解し、聴覚障害者の実態把握において必要となる聴力検査方法(行動観察法、標準純音聴力検査)、補聴器、人工内耳の基礎的事項を理解する。

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 聴覚障害者である幼児児童生徒への指導法の知識が身に付く。
2. 聴覚障害者である児童生徒への教科指導における配慮事項の理解が深まる。
3. 学校教育と関係の深い聴覚障害に関する諸検査・アセスメントの知識が身に付く。
4. 聴覚障害があることによる言語発達や日本語習得の課題を理解する。

■ 科目の学習要点事項

1. 学習指導要領と教育課程(聴覚障害に関する分野)
2. 聴覚障害児への指導方法(教科指導・自立活動)
3. 聴覚検査法
4. 聞こえとコミュニケーションの発達

参考文献

- ①改訂版「聴覚障害教育の基本と実際」／中野善達・根本匡文(編) 田研出版
- ②難聴児童生徒へのきこえの支援「補聴器・人工内耳を使っている児童生徒のために」 (財)日本学校保健会
(電子図書館でweb公開されている)
- ③特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省

評価基準

■ レポート評価

テキストの内容を的確に把握し、関係箇所の記述を自己の言葉で説明できていること。レポート用紙の約8割以上を使用して、基本事項が的確にまとめてあれば合格とする。

■ 科目終了試験評価

テキストや参考文献の内容を踏まえた上で、補聴器や人工内耳を装用している聴覚障害児への情報保障、教科指導上の配慮、聞こえの状況の把握する諸検査等、基本的な事項が理解できていれば合格(60点以上)とする。自己流の解釈や特定の主張しか記載していない場合は、不合格とする。

使用テキスト

配本年度

①『みんなで考える特別支援教育』梅永雄二・島田博祐・森下由規子編著(2019)、北樹出版

②『重度重複障害のある子どもの理解と支援』大沼直樹編著(2009)、明治図書

①②はセット 2020 年度～

科目概要

- (1) LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害の定義、特性を理解し、学習支援、行動支援の基本に関し学ぶ
- (2) 発達障害児に係る教育法規に関して学ぶ
- (3) 重複障害における実態把握と健康維持、興味喚起、コミュニケーション支援に関し学ぶ

学習上の目標

■ 科目の到達目標

1. 発達障害(LD、ADHD、自閉症スペクトラム障害)の定義、障害特性に関し、理解すること
2. 発達障害に係る学習支援、行動支援の基本的な技法に関し、理解すること
3. 発達障害児に係る教育法規について学ぶ
4. 重複障害における自立活動の一環としての健康維持、身体機能の向上、コミュニケーション支援の方法について学習すること

■ 科目の学習要点事項

1. 発達障害の定義
2. LD、ADHD の特性と対応～機能(ABC)分析
3. 自閉症スペクトラム障害の特性と対応～TEACCH プログラムによる構造化等の踏まえて
4. 学校教育法施行令第 73 条の 21 の改正等、通級の充実策
5. 重度重複障害の実態把握と自立支援
6. 重度重複障害のコミュニケーション支援

参考文献

通常学級での特別支援教育のスタンダード(東京書籍)

発達障害がいるクラスの授業・学級経営の工夫(明治図書)

重度重複障害児の興味への開発法(明治図書)

評価基準

■ レポート評価

- ① 課題内容について説明できているか。
- ② テキストの内容を理解したうえで解答がされているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。

■ 科目終了試験評価

- ① テキスト及びレポート学習内容を十分に理解したうえで解答がされているか。
- ② 論述型の問題に関して、文章を書く際の基本的ルールが守られているか。
- ③ 用語の解説や選択問題に関して、用語に対する理解が得られているか。